

2024 年度学校評価シート（自己評価）

認定こども園 聖愛幼稚園

1、園の教育目標

- キリスト教に基づき、一人一人の性格や特性、発達段階を踏まえて保育をし、自己肯定感をはぐくむことを目指す。
- 遊びを通した生活の中で、感性を養い、社会性をはぐくみ、自己統制の力を養う。

2、具体的な目標や計画

- 一人一人の性格や特性、発達段階を理解し、適切な保育環境を整え保育を行う。
- 教職員間の連携を深め、チームで保育する意識を高める
- たて割り保育（異年齢保育）を行い、異年齢間の関りを広げ、それぞれがともに育ちあう基盤を作る。また、こども同士が協力し合い遊びを広げられる環境を整えていく。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
認定こども園保育・教育要領、キリスト教保育、子どもの実態などをもとに考え指導計画を作成している。	B	子どもの実態の把握を行い、それについて保育者間で話し合い、作成した。育休などでの保育者の入れ替えがあり、足並みをそろえてやっていく難しさもあった。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。特別な配慮を要する子どもには個別の指導計画をたて、保護者や関係機関と連携をとる。	A	保育者間での話し合いにより、様々な方向から子どもの実態を把握し、指導計画に反映させた。配慮の必要な子どもの個別の指導計画では、保護者へ詳しく説明を行うよう配慮した。
自分の好きな遊びを見つけ、遊びに没頭する。また、年齢に応じて、協力して遊びを広げ楽しめるようになる。	B	様々な材料を用いて、遊びの幅が広がってきた。まだ集中して取り組むことが難しい子どもたちもいる。年長の子どもたちは、一緒に何かを作り上げる遊びを繰り広げられるようになった。
異年齢で過ごすことにより、遊びの幅を広げ、モデルを見て学ぶ。	A	年長の子どもが、年少の子どもたちの援助をしたり、年少の子どもたちが、年長に安心の居場所を見つけることができている。また、遊びの中で年齢にとらわれずに自分の好きな遊びを異年齢と共にするなどの姿が見られ始めている。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	保育者全員が、保育の目標を理解し、子どもの実態の把握に努め、適切な保育が出来ている。子どもの発達段階に応じた遊びの工夫や、個別に配慮する子どもたちへの対応が適切になされている。縦割り保育の担任制が浸透し、保育者と保護者との連携もスムーズになってきている。また子ども同士の自然な縦割りの関係性ができてきている。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育や、保育に関わる考え方について、保護者に伝える	引き続き保育への考え方について様々な場面で発信していく。お便りやホームページなどの SNS、ポートフォリオ等、可視化し、わかりやすくする。クラスだよりなど、より分かりやすく、発信できるよう考えていく。
保育内容の保育者間での共有	保育者間で話し合う時間を多く持つ。会議にとらわれず、いつでも相談し話ができる環境を整えていく。
保育園幼稚園の生活時間について	保育園の長時間の生活ではゆっくりとできる時間と場所を確保し、それぞれの生活時間を考慮しながら、双方にとってよりよい生活の仕方を考えていく。
縦割り保育	縦割りクラスでの、集会の持ち方の工夫と、遊びの設定の発達段階による工夫をしていく。

2024 年度学校評価シート（学校関係者評価）

認定こども園 聖愛幼稚園 学校関係者評価委員会

日時 令和7年 3月 2日（日）

出席者 評価委員（ 教会関係・地域住民 計4名）

園長・副園長合計6名

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

適切であった

2. 評価結果の内容は適切であったか

適切であった。育休など、女性の多い職場での難しさがあると思うががんばってほしい。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

適切である。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

より保育の質を上げるためにがんばってほしい。